

シラバス

1. 授業名

「高等教育経営論 ー大学職員論ー」

授業担当者：

教員 夏目達也 (高等教育研究センター)

連絡先 内線 5693 natsume@cshe.nagoya-u.ac.jp

2. 単位等 2単位

開講時期： 前期・月6限 (18:15~19:45)

3. 授業の内容

【授業の目的】

- ・すぐれた大学職員になるために必要な能力の獲得方法について理解する。
- ・大学職員の能力向上のために大学組織として取り組むべき事項について検討する。

【授業の目標】

- ・人材開発論・形成論の研究成果・到達点の概要を知る。
- ・身近な職場に学習・教育のための資源がいかなるものであるかを理解する。
- ・人材形成や自己の形成に関する自分なりの考えを明確化・深化させる。

【授業の構成】

第1単元 大学職員の能力開発の現段階：先行研究の学習と整理

第1回 オリエンテーション

第2回 大学職員論の研究課題

第3回 大学職員の研修機会の現状と課題

第4回 人材開発・養成論の基礎知識：企業内教育の現状

第5回 教員によるプレゼン：大学職員の経験による学習論の現状とSD概念の捉直し

第2単元 組織学習論・経験学習論

第6回 教員によるプレゼン：組織学習とは

第7回 安藤史江文献の学習

第8回 松尾睦文献の学習

第9回 谷口智彦文献の学習

第10回 中原淳文献の学習(1)

第11回 中原淳文献の学習(2)

第3単元 職場の学習リソースを発見する

第12回 現役大学職員によるプレゼン：キャリア形成と学習・私の場合

- 第 13 回 職場の学習環境と自分の活用方法 (1) 受講者によるプレゼン
第 14 回 職場の学習環境と自分の活用方法 (2) 受講者によるプレゼン
第 15 回 職場の学習環境と自分の活用方法 (3) 受講者によるプレゼン

4. 教科書等

コースパッケージ (資料集) を配布する。

5. 授業で取り上げる文献と参考書

<授業で取り上げる文献>

- ・安藤史江 2001 『組織学習と組織内地図 白桃書房
- ・桐村晋次 2005 『人材育成の進め方 第3版』、日本経済新聞社
- ・谷口智彦 2006 『マネジャーのキャリアと学習：コンテクスト・アプローチによる仕事経験分析』白桃書房, 2006.10.
- ・中原淳 2010 『職場学習論』東京大学出版会
- ・松尾睦 2006 『経験からの学習』同文館出版
- ・松尾睦 2009 『学習する病院組織：患者志向の構造化とリーダーシップ』同文化出版
- ・『高等教育研究第13集』(日本高等教育学会編、2010) 所収の論文
 - ・寺崎昌男「大学職員の能力開発 (SD) への試論」
 - ・羽田貴史「高等教育研究と大学職員論の課題」
 - ・福島一政「大学のユニバーサル化と SD」
- ・『カレッジマネジメント』(リクルート、2011年1-2月号) 所収の記事

<参考文献>

- ・愛知県私大事務局長会編 2007 『大学改革の推進と職員の役割』
- ・大場淳 2003 『SDの制度化に関する研究』(広大 COE シリーズ)
- ・大場淳 2008 『競争的環境下の大学における職員の専門職化に関する国際比較研究』
- ・小日向允 2003 『私立大学のクライシス・マネジメント』、論創社
- ・川喜多喬 2008 『優れた人材のキャリア形成とその支援』(ナカニシヤ出版)
- ・小池和男 2002 『ホワイトカラーの人材形成』、東洋経済新報社
- ・小池和男 2006 『プロフェッショナルの人材開発』ナカニシヤ出版
- ・小池和男 2005 『仕事の経済学[第3版]』東洋経済新報社
- ・酒井穰 2010 『「日本で最も人材を育成する会社」のテキスト』、光文社新書
- ・富士ゼロックス 2010 『人材開発白書 2010』
- ・山本眞一編 2004 『SDが育てる大学経営人材』、文葉社
- ・山本眞一・村上義紀・野田邦弘 2005 『新時代の大学経営人材』ジヤース教育新社
- ・IDE 『現代の高等教育』Vol. 499 2008/4月号『これからの大学職員』
- ・IDE 『現代の高等教育』Vol. Vol. 469 2005/4月号『SD/大学職員の能力開発』

6. 評価の方法

以下の事項をふまえ総合的に評価する。

1. 担当する課題の達成状況（小計 60 点、内訳は以下）
 - ①授業での発表（30 点）
 - ②最終課題：以下から選択。A4 で5枚程度（30 点）
 - ・「勤務校における経験からの学習リソースとその活用方法」
 - ・「自分が経験から学ぶうえでの工夫と実際に学んだこと」
2. 授業の参加・貢献の状況（小計 40 点）
 - ①司会の進め方（30 点）

全体の時間管理、発表者への指示・質問、参加者の討論への参加促進および討論の活性化・内容の掘り下げ（下記 10 もあわせて参照）
 - ②授業での発言の頻度とその内容（10 点）

7. 履修の条件

積極的に議論に参加する意欲を持つこと。そのための十分な準備をすること。

8. 履修上の留意事項

- ・授業は職場での働きかたや日常生活の見直しやその前提となる研究・学習に必要な知識とエネルギーを吸収する場です。貪欲な学習をお勧めします。

9. 授業における発表について

9.1 発表者

- ・発表するレポートは、前週までに、教員と受講者全員にメールにて送る。
- ・1回の発表は20分以内とする。
- ・冒頭に、レポートの概要を1分間で説明すること。その内容をレポートに記すこと。
- ・発表者は司会者の指示に従う。司会が時間管理を行い、報告が長い場合には注意する。
- ・発表者による報告の内容は、以下とする。
 - ①冒頭の1分間の説明用の要約
 - ②資料の概要の紹介
 - ③3点程度の論点 + それらについての自分の見解
 - ④テスト問題1題：発表のポイントの理解状況を点検できる内容にする。
 - ・採点基準を作る（3項目程度）。
 - ⑤報告をまとめるにあたっての自分なりの考え・感想を記す
 - 自分自身のことばで記すこと。素朴な感想、ホンネを大切にすること。
- ・発表するレポートのサイズはA4に統一する。
- ・レポート1枚目の冒頭2～3行目に、授業名「高等教育経営論」とレポート発表日、発表者氏名を記入すること。
- ・すべてのページにページ番号をつける。
- ・引用文献・参考文献を用いた場合には、必ずレポート巻末に明示すること。

9.2 司会者

- ・司会者は、事前に発表内容を把握する。次回発表者のレポートを入手する。
- ・提示された論点について、議論を深められるように準備する。当日は、論点に沿って受講者間での議論をリードする。
- ・タイムマネジメント：時間配分に留意する。
配分の目安： 発表 20 分、討論 50 分、教員等のコメント 10 分、予備
- ・出席者全員が一度は発言できるように配慮する。

9.3 発表者・司会者以外の人：

- ・自分の見解を、授業中の討論で簡潔に発表できるように準備する（例：メモ作成等）。
- ・言いたいことを短時間で、過不足なく簡潔に発言することは重要。一度にはできないので、この授業を活用して訓練をする。

9.4 その他

- ・発表・司会の担当者が、やむを得ない事情で欠席する場合：
 - ・速やかに教員に連絡する。自分で代理を依頼する。代理を依頼したこと、代理を務める人の氏名を事前に教員に知らせること。
 - ・1週間以上前に代理を依頼することが判明している場合には、授業でその旨を報告すること。

授業の展開

第1回（4月18日） オリエンテーション

<目標>

- ・本授業の概要・目的、進め方を理解する。
- ・本授業の履修が自分の研究に必要なかどうかを見極める。

<内容>

- ・シラバスの配布と説明
- ・コースパッケージについての説明

<事前学習>

教育発達科学研究科の履修ガイドに示された「シラバス」を読み、授業の概要を知る。

第1単元 大学職員の能力開発論の現段階：先行研究の学習と整理

<第1単元の内容>

- ・企業における能力開発研究の現段階を、いくつかの論文を通じて理解する。
- ・大学職員の能力開発をめぐる主な論点を理解する。
- ・大学職員の能力開発研究の課題について理解する。

第2回（4月25日） 人材開発・養成論の基礎知識：企業内教育の現状

<目標>

企業における能力開発研究をめぐる全般的状況について理解する。

<内容>

企業と大学における能力開発をめぐる現状についての担当教員による説明

<参考文献>

梶原豊 2004『人材開発論（増補版）』白桃書房

桐村晋次 2005『人材育成の進め方 第3版』、日本経済新聞社

<事前学習>

企業内教育に関する基礎知識を、コースパッケージ中の当該論文、その他を読み得る。

第3回（5月2日） 大学職員の研修機会の現状と課題

<目標>

大学職員の研修機会をめぐる現状と問題点について理解する。

<内容>

大学における能力開発をめぐる現状について、論文を購読する。

<文献>

寺崎昌男「大学職員の能力開発（SD）への試論」

（『高等教育研究第13集』（日本高等教育学会編、2010））

坂本孝徳「教職協働の実現に向けた職員育成への課題」

篠田道夫「戦略立案・遂行を担う新たな職員の役割」

両角亜希子「地域の大学間連携による職員育成」

（『カレッジマネジメント』166号（2011年1-2月））

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第4回（5月9日） 大学職員の能力開発論の現在

<目標>

大学職員の研修機会をめぐる現状と問題点について理解する。

<内容>

大学における能力開発をめぐる現状について、論文を購読する。

<文献>

- ・羽田貴史「高等教育研究と大学職員論の課題」

（『高等教育研究第13集』（日本高等教育学会編、2010））

- ・福島一政「大学のユニバーサル化とSD」

（『高等教育研究第13集』（日本高等教育学会編、2010））

- ・『カレッジマネジメント』（リクルート、2010）

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第5回（5月16日） 大学職員の経験による学習論の現状とSD概念の捉直し

<目標>

経験による学習論に関する基礎知識を得る。

<内容>

教員によるプレゼン：経験による学習論の概要と若干の特徴について

<文献>

松尾睦 2006『経験からの学習』同文館出版

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第2単元 組織学習論・経験学習論の現段階：先行研究の学習と整理

第6回（5月23日）

<目標>

組織学習論に関する基礎知識を得る。

<内容>

教員によるプレゼン：経験による学習論の概要と若干の特徴について

<参考文献>

安藤史江 2001『組織学習と組織内地図』白桃書房

松尾睦 2009『学習する病院組織』同文館出版

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第7回（5月30日）

<目標>

組織学習論に関する先行研究と主な到達点について理解する。

組織学習論が大学職員の学びといかに関連するかを理解する。

<内容>

組織学習論の先行研究の動向を整理した論文を購読する。

<参考文献>

安藤史江 2001『組織学習と組織内地図』白桃書房

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第8回（6月6日）

<目標>

組織学習論に関する先行研究と主な到達点について理解する。

組織学習論が大学職員の学びといかに関連するかを理解する。

病院組織における学習の特徴を、大学組織の差異に留意しつつ学ぶ。

<内容>

組織学習論の代表的な論文を購読する。

<参考文献>

松尾睦 2009『学習する病院組織：患者志向の構造化とリーダーシップ』同文化出版

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。

授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第9回（6月13日）

<目標>

組織学習論に関する先行研究と主な到達点について理解する。
組織学習論が大学職員の学びといかに関連するかを理解する。

<内容>

組織学習論の代表的な論文を購読する。

<参考文献>

谷口智彦 2006『マネジャーのキャリアと学習 :コンテキスト・アプローチによる
仕事経験分析』白桃書房, 2006.10.

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。
授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第10回（6月20日）

<目標>

職場学習論に関する先行研究と主な到達点について理解する。
職場学習論が大学職員の学びといかに関連するかを理解する。

<内容>

職場学習論の代表的文献を購読する。

<参考文献>

中原淳 2010『職場学習論』東京大学出版会

<事前学習>

コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。
授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第11回（6月22日）

<目標>

大学職員の専門性の若干の特徴を理解する。
大学職員の専門性形成に向け組織の提供する研修機会と自己学習の関係を理解する。

<内容>

同志社大学・井上真琴企画課長の講演
(高等教育研究センター主催招聘セミナー、午後6時半～8時、場所未定)

<参考文献>

井上真琴 2004『図書館に訊け!』筑摩書房(ちくま新書)

<事前学習>

当該図書を読み、自分なりの見解をまとめる。
講演で質問できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第12回（6月27日）

<目標>

- 職場学習論に関する先行研究と主な到達点について理解する。
- 職場学習論が大学職員の学びといかに関連するかを理解する。

<内容>

- 職場学習論の代表的文献を購読する。

<参考文献>

- 中原淳 2010『職場学習論』東京大学出版会

<事前学習>

- コースパケット所収の当該論文を読み、自分なりの見解をまとめる。
- 授業で質問・発言できるように、自分なりの疑問点・見解をまとめる。

第3単元 職場の学習リソースを発見し、活用する

第13回（7月4日）

<目標>

- 現役の大学職員による専門性形成の経験を聞く。
- 専門性形成のために自分なりの工夫を考える。

<内容>

- 現役の大学職員によるプレゼン

<参考文献>

- とくになし。

<事前学習>

- 授業で質問・発言できるように、職場での学習機会について自分なりの疑問や見解をまとめる。

第14回（7月11日）

<目標>

- 職場の学習環境と自分の活用方法について考える。

<内容>

- 受講生の代表によるプレゼン（その1）

<参考文献>

- とくになし。

<事前学習>

- 授業で質問・発言できるように、職場での学習機会について自分なりの疑問や見解をまとめる。

第15回（7月25日）

<目標>

職場の学習環境と自分の活用方法について考える。

<内容>

受講生の代表によるプレゼン（その2）

<参考文献> とくになし。

<事前学習>

授業で質問・発言できるように、職場の学習機会につき自分の疑問や見解をまとめる。

2011年度前期「高等教育経営論－大学職員論」 コースパッケージ所収論文

【第1部 テキスト編】

- ・安藤史江 2001『組織学習と組織内地図 白桃書房
- ・梶原豊 2004『人材開発論（増補版）－人材開発活動の実践的・体系的研究』白桃書房
- ・谷口智彦 2006、『マネジャーのキャリアと学習 :コンテキスト・アプローチによる仕事経験分析』白桃書房
- ・中原淳 2010『職場学習論』東京大学出版会
- ・松尾睦 2006『経験からの学習』同文館出版
- ・松尾睦 2009『学習する病院組織：患者志向の構造化とリーダーシップ』同文化出版
- ・『高等教育研究第13集』（日本高等教育学会編、2010）所収の論文
 - ・寺崎昌男「大学職員の能力開発（SD）への試論」
 - ・羽田貴史「高等教育研究と大学職員論の課題」
 - ・福島一政「大学のユニバーサル化とSD」

【第2部 参考資料】

- ・『カレッジマネジメント』（リクルート、2011年1-2月号）
 - 坂本孝徳「教職協働の実現に向けた職員育成への課題」
 - 篠田道夫「戦略立案・遂行を担う新たな職員の役割」
 - 両角亜希子「地域の大学間連携による職員育成」
- ・『現代の高等教育』（IDE,523号、2010年8-9月号）
 - 山本清「大学職員の能力開発」
 - 大工原孝「大学の事務組織と職員」
 - 鈴木俊之「「行動シナリオ」と職員養成の課題・東京大学」
 - 谷口邦生「「教職協働」を担う職員の育成・早稲田大学」
 - 川本幸彦「国立大学の職員育成・兵庫教育大学を事例に」
 - 両角亜希子「職員の将来像と育成の課題・職員調査から」
- ・富士ゼロックス総合教育研究所 2009『人材開発白書 2009－他者との”かかわり”が個人を成長させる－』（成長感に関する分析報告書）
- ・富士ゼロックス総合教育研究所 2011『人材開発白書 2011』